茗溪学園　中学校・高等学校

Study Skills を実につけさせる教育　その 11
伝える表現　：　Recitation Contest

教務部長　田代　淳一

茗溪学園では毎年 2 月、高校 1 年生英語科の取り組みとしてレシテーションコンテスト（Recitation Contest）を行っています。名称は“暗誦大会”ですが、勿論単なる暗誦大会ではなく、Presentation Skill の重要なトレーニングと位置付けています。

言語そのものの多様性が日本語ほど複雑ではない英語の場合、言葉の裏にある感情や思い入れ、微妙なニュアンスを伝えるためには“デリバリー”が重要な要素となります。特にスピーチの場合、言語で伝わる部分は 1 割でしかなく、残りの 9 割は表情や声の抑揚・調子、身振り手振り、視線、間（ま）、緩急などのデリバリーで決まると言っても過言ではありません。ハイレベルな高校英語の学習の中間地点に当たるこの時期に、コミュニケーション・スキル、プレゼンテーション・スキルの重要な技能をトレーニングさせています。

取り組みは 12 月からスタートします。課題となるスピーチはキング牧師の“I Have a Dream”、ケネディ大統領の“大統領就任演説”、ヘレン・ケラーの“Three Days to See”の 3 つであり、それぞれ 400 語程度に短縮されています。生徒はこの中からひとつを選択します。以前はチャップリンの“独裁者”なども課題候補になっていましたが、生徒が感情移入しやすく、生き方に共感できるものという視点でこの 3 つになりました。どのスピーチも、何か困難があるけれどもそれを乗り越えていこうという内容であり、最大限に生きていこうという共通したメッセージがあります。この年代の子どもたちには最も訴えるものが多いスピーチです。さて、最初の取り組みは自分の選んだスピーチの歴史的な背景を調べさせ、使われている言葉の意味をしっかりつかむことから始まります。その後冬休みをかけて暗記。1 月に入ってクラス単位の予選で全員が発表します。クラスの中から各 1 ～ 4 名が選抜され、1 週間のあいだ昼休みや放課後に更に練習を重ね、2 月の本選に臨みます。

単純に考えると、この取り組みは海外生が有利に思えます。もちろん、デリバリーが同じなら断然海外生が有利になってきますが、本選の結果でも毎年上位を海外生が占めるということにはなっていません。内容を深く理解するという点で国内生の生徒も、海外生に並ぶレベルにまで持っていけます。ただ英語が得意であるというだけではダメなのです。スピーチの深さを理解できる理解力や想像力と、感情を表現したい、コミュニケーションをしたいという意思が大切になってきます。必ずしも海外生が予選通過するとは限らない理由です。歴史的には“I Have a Dream”が最も有名なスピーチでしょう。それほど素晴らしいスピーチです。アメリカで学んでいれば必ず学ぶスピーチではないでしょうか。そのせいか、アメリカからの海外帰国生はキング牧師を選ぶことが多い傾向にあります。しかし、この取り組みの中で人種差別の根深い暗さや、アメリカにいたときに気づかなかった問題に目覚めることが多いようです。